

TV 活撃 刀剣乱舞

毎週／土 深夜0:30～1:00 TOKYO MX

その他の放送局はP.124を参照

WEB▶ http://katsugeki-touken.com/
Twitter▶ @katsugekitouken

text by MAYUKO UEDA

さまよえる刃

あの日歩いた道。あの日見た街並み。
それは、僕たちが守るべき大切な「歴史」。
その姿を目に焼きつけて、いっしょに戦ってきたはずなのに。
彼らのまなざしは、いつしか別の方向を向いていた。

刀剣男士として顕現したときから、
僕たちの使命はいつでもひとつだった。
ひとたび審神者の命を受けたなら、
ひたすら剣を振るうのみ。
迷いは太刀筋を乱すから、
悩んでいる暇などない——はずだった。

第二部隊の隊長として、
かろうじて使命は果たせたとはいえ、
多くの犠牲が出たことを気に病んでいた、和泉守兼定。
守れたものがある一方で、
守れなかったものもたくさんあったからだ。

決意を新たに向かった先は、慶応三年、京都・伏見。
それは、陸奥守吉行の元の主である
坂本龍馬が生きていた時代。
ともに過ごした日々はかけがえのない思い出。
だからこそ、元の主が生きた世界を、
時代を守りたいという、陸奥守の思いは強くなる。

しかし、寺田屋事件の混乱のさなか、
龍馬と再会してしまった陸奥守。
遠くから見守るはずが、いざ傷つく姿を見てしまったら、
手を伸ばさずにはいられなかった。
「これからもそばに置いてやってくれ」
と言い残さずにはいられなかった。
たとえこの先、
残酷な未来が待っていると知っていても。

ただの感傷だと笑う陸奥守を見て、
堀川国広の気持ちは複雑だった。
「歴史」には、別の結末もありえたのではないか。
自分が本当に守るべきものは何なのか
——堀川の心が、揺れる。



さまよえる刃

信じた道、まっすぐな絆

和泉守の苦しみを自分の痛みにして

──改めて堀川国広の魅力とは？

榎木　感情的な部分もある一方、理性的な一面ももっているので、見ている方が感情移入しやすい、バランスがいい子だなと思います。第1話のころは本丸に来たばかりで、戦闘でも息が上がることが多かったですが、後半になるにつれて、大太刀相手にもしっかり立ち回って、脇差ならではのすばやい動きが増えてきたなど、攻撃の面もなるべく身軽な感じで入れるよう意識していました。

──[illegible]（CV：[illegible]）の[illegible]は、多くのファンが[illegible]。

榎木　不思議な魅力を感じます。堀川さんのお兄ちゃんもあいまって、僕たちのことを優しく見守って、導いてくれているような安心感を覚えます。

──江戸での苦い経験を経て、第二部隊の新たな戦いが始まりました。第8話では、隊長の和泉守兼定についてこんのすけが「向こう見ずで、気が短くて、青くさくて、けんかっ早くて、安定性に欠ける」と審神者に話していましたね。

榎木　散々に言っていましたね（笑）。僕自身としてはおもしろいなと思って聞いていましたけど、堀川がいたら全力で否定しているでしょうね。「そこも含めていいところなのに」って。ただ、こんのすけも「それ以上の何かを感じる」と言ってくれていたし、こんのすけ会議では第二部隊に誇りをもってくれているのが感じられてうれしかったです。ちょっとドジなところもあるけど、うちのこんのすけはすばらしいですよ！

──第一部隊にはない、第二部隊のよさがありますよね。

榎木　第一部隊は超人的な刀の集まりですからね。戦いでは第一部隊は勝てないでしょうけど、まっすぐさでは負けてないんじゃないかな。[illegible]という思いはきっとみんな[illegible]しているし、いろんな事件を経て絆も深まっている。お互いの欠点を補完するいいチームになっていると思います。

「第二部隊は、まっすぐさでは負けてないんじゃないかな」

堀川国広役

榎木淳弥

●えのき・じゅんや／10月19日生まれ。[illegible]。主な出演作に「カードファイト!! ヴァンガードG」シリーズ（[illegible]）、[illegible]月スタートのTVアニメ「アイドルマスター SideM」（[illegible]）などがある

──[illegible]

榎木　死ぬまでいっしょに……って、すごく献身的なことでもある反面、すごく[illegible]なことでもあるなって。そういう本当に複雑な気持ちが絡み合って、堀川のなかで土方さんへの思いが大きくなっていったんじゃないでしょうか。ダメ押しになったのは和泉守の涙で、「あ、兼さんも同じ気持ちなんだ」と思ったんだと思うんですよね。やっぱりあそこは大きかったんですね。

榎木　和泉守の苦悩を、堀川は自分の痛みのように感じてしまって、助けてあげられない無力さも感じている。だからこそ責任を感じて、自分を追い詰めてしまっている。和泉守とは、兄弟とも家族とも違う、絆の深さを感じます。土方さんはもちろん、それ以上に[illegible]。

榎木　この[illegible]がすごく難しくて、それは堀川自身も自分の[illegible]をわかっていない部分が大きかったからなんじゃないかな。[illegible]が大変でした。

──[illegible]してくれたらいいものを……。

榎木　[illegible]かもしれないですね（笑）。[illegible]んでしょうけど。

──今後楽しみにしてほしいところは？

榎木　第十話は気になる形で終わったと思いますが、堀川なりのやり方で悩みと向き合っていくと思うので、ぜひ見守っていてください。

まっすぐすぎるまなざしに映り込んだ“守る”べき存在

堀川国広

和泉守兼定の相棒で、助手。それが、堀川国広にとっての誇りだった。同じ土方歳三の愛刀だったからだけではない。[illegible]でペアを組むよう審神者に命じられた[illegible]、兼さんはこう言っていた。「俺たちならやれる、そう期待してるから」。あのとき[illegible]ピアスの赤をよく覚えている。まるで[illegible]を分けてもらったようで、その信頼がうれしかったからだ。

第二部隊が結成されてからは、いつも背中を追いかけ、相棒として[illegible]に並び立てるよう、いっしょに戦ってきた。刀剣男士の使命はただ歴史を守ること。戦いでは気を抜かない。一瞬のすきが命取りになるから──しかし刃を振るうたび、[illegible]のなかで迷いが生まれていくのを、堀川国広は隣で見ていた。

[illegible]として強くあるために、守るものはただひとつ「歴史」である。そ[illegible]

歴史をあるべき姿にするため、大切な人への思いを押し殺す。それが使命だから。けれど、[illegible]気持ちの[illegible]をつけられない



「活撃　刀剣乱舞」という物語の覚悟を感じた曲です

OP ヒカリ断ツ雨

斉藤壮馬

●さいとう・そうま／4月22日生まれ。山梨県出身。81プロデュース所属。P.142より本誌にて小説連載中の作詞家・児玉雨子との対談記事を掲載

刀剣男士の戦いに寄り添うために

——「ヒカリ断ツ雨」は、どんな曲だと感じていますか？

斉藤　戦うことの重みを引き受ける、覚悟を感じる曲だと思いました。刀剣男士は歴史を守るために戦っているのだけど、そもそも歴史を守るというのはどういうことか、すごく考えたうえで戦っていますよね。「ヒカリ断ツ雨」というタイトルも、時間の流れのように雨が降りつづいていく、そのなかで戦っていく彼らの姿を連想させます。

——斉藤さんの新しい一面が見える曲にもなっていますね。

斉藤　今回の曲は「引き算」を求められたんです。特にAメロからBメロにかけては、剣士が雨の中、野ざらしで立っているイメージなので、淡々と、静かに歌ってほしいというディレクションがあって。ニュアンス要素ではないところでの説得力が要求される、新しい挑戦になりました。

——OP映像と合わせて見たとき、どう思いましたか？

斉藤　Ufotableさんの気合いの入った映像といっしょに自分の歌が聞こえてくるのは何だか不思議な感覚があって。でも、少しでも彼らの戦いに力添えできていたらいいなと思いました。

——声を担当されている鶴丸国永も美しいですよね。

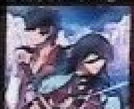
斉藤　ふだんはひょうひょうとしていながらも、戦いには真剣で、それでいてどこか楽しげに、余裕をもっている。鶴丸がよく出ているシーンだと思います。第四話では本当においしい登場をさせてもらって、ありがたいなと思います。皆さんをたっぷり驚かせたんじゃないでしょうか（笑）。

——今後の展開を楽しみにしている皆さんにひと言お願いします。

斉藤　この作品における「結末」をどう考えるのか、というのがそもそも難しい問題ですよね。時間をさかのぼって歴史を守る戦いに終わりはあるのか……。ひとまずは「ヒカリ断ツ雨」とあわせて、刀剣男士たちの生きざまを最後まで見届けてください。

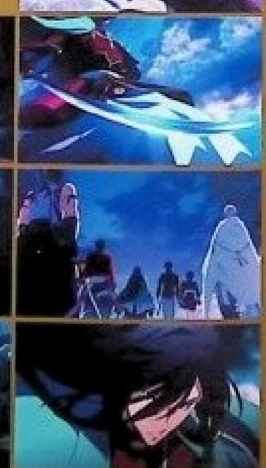
発売中

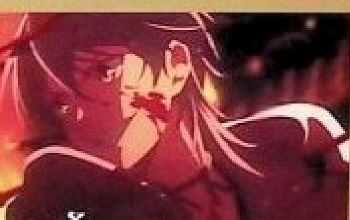
『ヒカリ断ツ雨／夜明けはまだ』

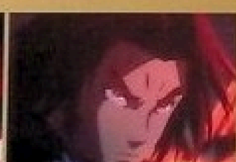


期間生産限定盤（CD＋DVD）本体1700円＋税









しんとした夜の町で、あるいは燃え盛る火の中で、戦う刀剣男士たち。時に凄惨な表情で、力強く、舞うように人知れず歴史を守っている

さまよえる刃



月夜の下、どこか達観したような表情でたたずむ三日月宗近。そして第一部隊のシルエットも描かれる。刀剣男士がひそかに始める瞬間、桜の花びらが舞う。彼らの戦いはこれからも続いていくのだった



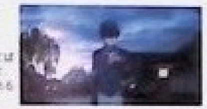
第二部隊としての任務





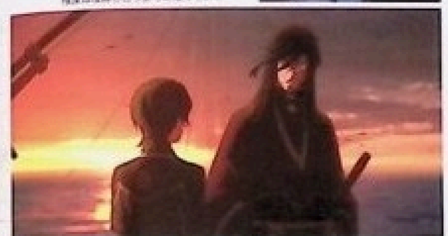
第一話　出陣

時間遡行軍から歴史を守る任務を、和泉守兼定とともに果たした初期の堀川国広。その後、文久三年のとある城下町で遡行軍を迎え撃つ。苦心する二振りの前に審神者が現れ、蜂須賀虎徹と陸奥守吉行を顕現させる。



この時代に来てから陸奥守とぶつかってばかりだった和泉守。しかし事件を通して歴史を守るという強い意志や、考えをある程度は理解し合うようになっていた







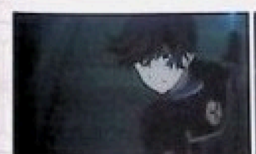
第三話　主の命

志士たちに外国人を殺させ、戦争を起こさせるのが遡行軍の目的と判明。失われた命を前に悔しがる陸奥守は、冷静に諭す和泉守と衝突。そして陸奥守と堀川は、志士たちの国をよくしたいという純粋な思いを知る。それを利用する遡行軍への怒りを募らせるのだった。



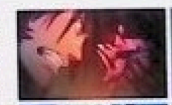
第二話　部隊長

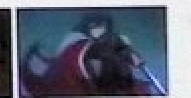
時間遡行軍によって、城の侍たちは命を落としていた。時間遡行軍の目的を知るため五振りはこの時代にとどまり、和泉守を隊長とする第二部隊を結成。そんなとき港に停泊していた外国人を乗せた蒸気船から騒動が起こる。





陸奥守に遡行軍の手が伸び、絶体絶命の状況。命に替えても、大太刀を食い止める。それが、陸奥守とかわした約束だから。蜂須賀も身を挺して大太刀に向かっていく









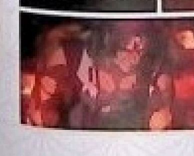
第五話　戦火

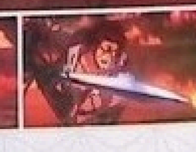
和泉守、陸奥守と合流し一行は港をめざす。そこに時間遡行軍が動かす新たな軍艦の姿が。大砲が発射され、湊岸は火の海に包まれる。一方、蜂須賀も大太刀を食い止めようと全身ぼろぼろに。和泉守は、時間遡行軍の攻撃を受けて海に投げ出されてしまう。



第四話　守りたかったもの

勝海舟と西郷隆盛との会談を守るため、第二部隊は数百年前の江戸に。和泉守と堀川は元の主・土方歳三へ思いをはせる。予測どおり現れた遡行軍のなかには、強力な大太刀の姿が。家屋に忍び込み攻撃する蛮行の前に、第二部隊最後の刀剣男士である鶴丸国永が華麗に登場。









歴史を守るということ



第七話 第一部隊

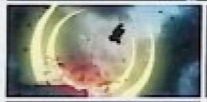
第一部隊が出陣した先は永禄八年、京都。足利義輝が討ち取られ、戦いを終えたはずの町に、鬼の面をつけた辻斬りが現われ人を襲っている。時間遡行軍を生み出す謎の存在。その強大な力を前にひるむこともなく、第一部隊の刀たちは鮮やかに敵を倒していくのだった。

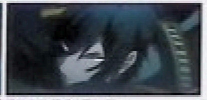












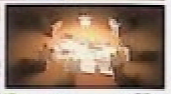


足利義輝、源氏の重宝、天下五剣……名だたる名刀がそろうなか、写しである自分に落ち込む山姥切

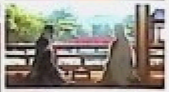
第六話 本丸

辛くも本丸に戻った第二部隊。負傷者を出してしまったことに困惑する和泉守兼定を見守る陸奥守。ひとり自問自答する和泉守の姿に、立ち尽くすことしかできない堀川。そして時間遡行軍の新たな動きに、第一部隊が招集される。



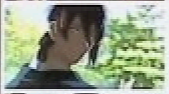














新たに骨喰藤四郎を加えて、六振りとなった第一部隊。輝かしい実力と実績を誇る、この本丸のなかでもピカイチの精鋭部隊だ。その隊長を務めるのは、山姥切国広だ

第九話 元の主

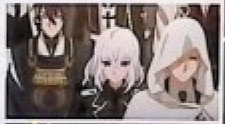
第二部隊再出陣の任務は慶応二年、京都。時間遡行軍の狙いは寺田屋事件、坂本龍馬暗殺事件だ。陸奥守の知識を基に動くなか、元の主である龍馬と鉢合わせしてしまう。その再会に堀川は複雑な思いを抱く。はたして自分たちが守る歴史とは……と。

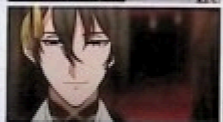






「歴史を守れよ」。第一部隊の三日月から受け取ったことばは、きわめて重い。その本当の意味とは……





第八話 歴史を守る

京に残り、時間遡行軍の被害を受けた人々のために時間を使う第一部隊。いっぽう本丸では、歴史を守る意味に迷う和泉守を、堀川が励ますが、どこか核心には触れられないまま。みずからの意志で第二部隊を再編成させた和泉守。そして審神者から、新たな命が下る。

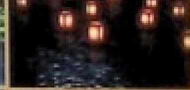




さまよえる刀



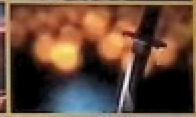
灯籠流しから始まるED。かつて戦国を渡った刀として、元の主とともに戦場を駆け抜けた日々。そのときの思い出は、元の主人を失った今でも、刀剣男士たちの胸のなかに眠っている

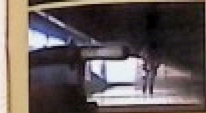


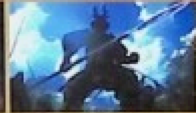
















ED 百火撩乱

Kalafina

●かじうらゆき／梶浦由記プロデュース、劇場版「空の境界」主題歌プロジェクトで誕生し、デビュー10周年を目前にした女性3人組ボーカリストグループ



発売中

「百火撩乱」

鮮やかに華やかに舞い散る火花

—原案の「刀剣乱舞-ONLINE-」をプレイしていらっしゃったんですね。

Hikaru（H） サーバーの取得、大変でした（笑）。歴史を再度洗う角度から学べますし、それぞれ個性的な刀剣男士たちに愛着が湧きます。

Keiko（K） 私もHikaru先生に教わりながら、強い刀剣男士を集めるのに夢中です。常に冷静な判断をする今作品の審神者がすてきです。

Wakana（W） 私はゲームがへたなので、2人の話を横でよく聞いています（笑）。

—「百火撩乱」はどんな楽曲だと思われますか？

K メロディからは"和"を、歌詞からは男性的な責任感、そして少し寡黙な人物像と強さを感じました。作品の内容を事前に少し知っていたので、楽曲のタイトルを見たときは、さまざまな刀の激しく美しい戦闘シーンが咲き乱れるんだろうなと思いました。



W 鮮やかに華やかに、舞い散る火花。周りとは違う時間軸で、重たい剣をゆっくりと振りかざすような、不思議な感覚がありました。強い想いがいつも人の心を動かす。繊細だけれどハッキリと揺れ動くその想いが描かれていると思います。

H 時代背景や前の主への想いを抱えながら葛藤し、心の葛藤もありながら歴史を守る彼らの曲だからこそ、曲線のように強く美しいのだと思いました。

—レコーディングの際に心がけたことはありましたか？

K 「残された僕らはきっと」のフレーズは、感情を少しだけ抑える場面展開でもあるので抑揚をつけた歌唱表現を、と梶浦さんからディレクションいただきました。全体を通して余韻のある倍音を響かせるようにしています。

H リズムがしっかり刻まれている中でレガートに歌う歌唱法を選んだのは久しぶりだったので、しっかり意識しました。

W 「結び」だけど「ほえる」わけではないというか……。強さを前面に出すわけではなく、隠しもっているような凛々しさを求められていたのかな、と思います。

—映像と合わせて、刀剣男士への思い入れも強まりますね。

W サビ部分で、花びらが舞い上がり、花吹雪となる映像に鳥肌が立ちました。和泉守の姿の美しさも、国広のかわいらしいけど凛々しさのある部分も、お互いを尊重し合う優しさも、それぞれすてきだと思います。

K どんなにつらくとも変えてはならない歴史を守り抜く、刀剣男士と歌詞のリンクが今後も楽しみです。あと、三日月宗近のとっても落ち着きある安定感にもひかれます。本気になった三日月さん最高です！

H 第一部隊の隊長、まさかの山姥切で驚きました……！ 薬研と骨喰の関係性もかいま見えるし、ちらっと映った大倶利伽羅も気になるし……語り足りません（笑）。

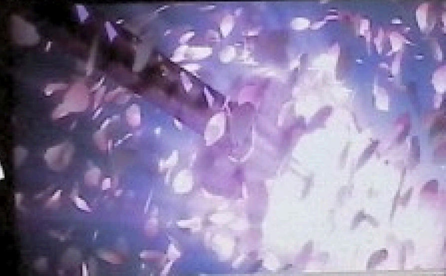
—物語も佳境に入りました。今後楽しみにしていることは？

K 美しい戦いのシーンですね。第七話の三日月さんの戦闘には鳥肌が立ちました。最後まで作品の余韻とともに「百火撩乱」をお楽しみください!!

W 歴史を動かすのはいつも人の想いであり、すべての命が歴史にはとても大切なもの。どんな結果になるとしても、みんなの想いがひとつになり、かなえられることを願います。

H 「百火撩乱」は、TVサイズはもちろんですが、フルサイズで聴いていただくともっと世界が深まります。作品とともに音楽も楽しんでいただけると幸いです。

葛藤しながら歴史を守るからこそ、強く美しい



メロディで〝時代〟を感じられるように

音楽 深澤秀行

●ふかさわ・ひでゆき／音楽家。オフィス・ウィズアウト所属。アニメ劇伴は『幕末機関説 いろはにほへと』がデビュー作。また、幕末が舞台の物語にかかわれることについて、縁を感じると語る

多種多様な刀たちを音で彩るために

――「刀剣乱舞-ONLINE-」のことは以前からご存じだったんですね。

深澤 そうなんです。ただ、刀剣がたくさん出てくるゲームであるということくらいしか知らなかったので、詩を持っている刀剣がいると知って驚きましたね。

――「活撃 刀剣乱舞」の音楽制作はどのように進んでいったのでしょうか。

深澤 最初は、時代背景を意識して「和」を前面に出した音づくりをイメージしていたんです。でも、ufotableの近藤光（制作プロデューサー）さんから「ある種のヒーローものとして考えてほしい」と言われたんです。それで、わかりやすい「和」ではない、バランスを取った形で第1弾PVの音楽をつくったら、まだ「和」が多いと言われて(笑)。「活撃」というタイトルどおり、にぎにぎしさというか、生き生きと刀たちが舞っている感じを意識して第2弾PVの音楽をつくったことで、方向性が決まりました。

――試行錯誤した結果の音づくりなんですね。

深澤 はい。楽器というよりメロディから時代が感じられるようにしています。和楽器って琴にせよ尺八にせよ、一音鳴っただけで、和の世界にもっていく力があるんです。だから、そういうわかりやすさを少し控えたつくりにはなっています。メロディを「歌う」ことに関しては、やはり人間が演奏する楽器のほうがうまく表現できるので、ストリングス、フルートや金管は奏者の方にお願いしています。

――刀剣男士それぞれの名前を冠した楽曲はどのようにつくっていかれたのでしょうか。

深澤 事前にいただいた資料や、ファンの皆さんがそれぞれ思っていらっしゃる刀剣男士の魅力について調べたりして、イメージを膨らませました。たとえば薬研さんだったら、外見はすごく繊細なんですが、劇中ではこまやかに、苛烈に舞うわけですよね。そういうキャラクターの芯になるところは、間違わないように気をつけました。陸奥守さんはやっぱり龍馬をイメージして、海や船へのあこがれを意識してつくっています。和泉守さんは重みを出すことと、堀川くんは「兼さんの相棒です」と本編でも言っていたので、兼定さんの上昇していくメロディと対になるよう、下がっていくメロディにしています。

――ダビングにはいつも立ち会われているそうですね。

深澤 あんまり現場ではないらしいんですけど、以前かかわった『Fate/stay night [Unlimited Blade Works]』のときもそうだったので。違う音楽を提案することもありますし、その場に合わせてつくったオリジナルの曲もたくさんあります。第二部隊をメインにつくっていたので、第七、八話でいざ第一部隊に物語が移ったときに、彼らを彩る音楽がなかなかなくて、新たにつくることになりました。

――第一部隊はどういうイメージなのですか？

深澤 まず「こんなに強いの!?」と、びっくりしました。第二部隊があんなに手こずっていた大太刀を一撃で倒していたし、圧倒的で、別の意味で個性的です。あと、びっくりしたのは、こんのすけがいっぱいいたことです。肩に乗っていたり、真剣な顔をして遡行軍の話をしていたり。こんのすけだけは、資料を検索したりするシーンがあるので、現代っぽいアレンジになっています。

――放送はリアルタイムでご覧になっているそうですね。

深澤 みんなが放送を楽しみにしていて、いっしょに盛り上がって、シェアできるのってすばらしいなと思って。あとはフィードバックがあるのが本当にうれしいんです。この作品は全員が主人公というか、多種多様な刀が次々と出てきますよね。それぞれに思いがあって、事情もあって、それが絡み合っていく。ひとりひとりのスピンオフで1クールできそうなくらい、深いキャラクターのつくり込みが魅力だと感じます。そのうえで、隙間をみんなで埋めていくことで、楽しさが倍増になる。僕はキャラクターの一面を音楽で描いたけど、別にこれだけが正解ではないんですよ、という気持ちもあるんです。

――みんなでつくっている作品というのが、今っぽいですよね。

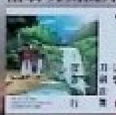
深澤 そうですね。それに、僕はもともと幕末ものが好きなんですよ。国を憂いて命を懸けて戦う……自国の歴史を「世界観」ということばで表現していいのかちょっとわからないですけど、男として向かってるものがあるし、その時代に自分がいたら何ができたかと考えてしまうんです。僕は劇伴デビューが『幕末機関説 いろはにほへと』なんですが、当時は1年生の気持ちで必死に先輩に追いつこうと頑張っていたのですが、それから何年かたって、またこうして幕末を音楽で彩ることにチャレンジできるのがうれしいです。

――不思議な縁ですね。最後にサントラの聴きどころを教えてください。

深澤 サントラでは「活撃 刀剣乱舞」の世界にどっぷり浸かってもらいつつ、メインテーマのフレーズがいろんな曲に潜んでいるので、宝探しみたいにして見つけてもらえると楽しいかもしれません。あとは、Blu-ray／DVDの特典に入っている「伯仲剣舞」というサウンドトラックのアレンジバージョンでは、二振りの刀剣のテーマをメドレー／リミックスしたものが入っていて、よりキャラクターを自由に表現しているので、ぜひ聴き比べてみてください。

9月13日水発売

活劇 刀剣乱舞 音楽集





第八話 歴史を守る

♪活撃ノ主題

「第二部隊が思いを新たに出撃するシーンでは、第一話で第二部隊が集結したときと同じ曲が使われているんです。音楽の効果をすごく感じて、われながらすごくいいなと思いました」

第五話 戦火

♪ウタワレシ悲哀

「まさかあんな大惨事になるとは……クワイヤ（合唱）だけの寂しい感じの曲で……」

第四話 守りたかったもの

♪鶴丸国永

「用意した曲が鶴丸さんの登場シーンにばっちりはまって"こんなこともあるんだな"と驚きました。SNSで曲をエレクトーンで弾いてくれた人を見つけてうれしかったです」